

全医労青年部ニュース

全日本国立医療労働組合

2018年6月20日発行

No.31

きこくいやい(smile)
おいどん達のかごんまへ
人も土地もあちど！
〜九州地方協青年集会〜

6月8〜9日、鹿児島県霧島市で九州地方協青年集会が開催され、120名が参加しました。

初日は松田正史青年部長（大牟田）の基調報告後、看護師でメンタルコーチの福島美奈子氏を講師に迎え「誰も教えてくれないコミュニケーション」と題した講演がありました。コミュニケーションは五感を使う。そのなかで「視覚、聴覚、身体感覚が優位感覚だ」と学び、自分の感覚はどれが優位かと診断後、隣の人とペアを組んで学んだことを実践しました。

講演後は、鹿児島地区が企画した「ドッチビー」をしました。8班にわかれて対決をし、日常生活ではあまり動かさない身体の部分を動かして、楽しく交流しました。

夕食交流会では、8地区が個性豊かにそれぞれ楽しい地区紹介をしました。ドリンクの早飲み競争やチューブを使ったタバスコゲーム、歌を歌ったりと大いに盛り上がりました。

2日目は分散会をしました。自分たちが働いている今の状況、年休がと

れているか、超過勤務、今後の青年部活動などについて話し合いました。「人が足りない」「夏季休暇を取るとき6月〇日〜と日付指定された」など厳しい現場の状況を話す青年もいて、職場の問題を解決したことを共有しました。

各班の代表から分散会の報告を受け、全体討論に入りました。討論では、いま問題になっている特殊業務手当削減について「仕事への意欲が減る」という意見がありました。その他にも「委員会や研修は超勤が取りづらい」などの意見もありました。2日間、交流し、学び、とても活気のある青年集会となりました。



要求実現にむけて
仲間を増やそう！
〜全医労学校〜

6月13〜14日、全医労本部で全医労学校が開かれ、58名が参加しました。全医労学校は近年、青年の参加が増えてきました。昨年は模擬窓口交渉と模擬団体交渉を行いました。今年も組織拡大と賃金についての勉強をしました。

初日は、名取学氏（全労連書記局長）を講師に「職場を変えるために、仲間と行動しよう」と題して、コミュニケーション・オーガナイズングの手法を活用するためのワークショップを行い、要求実現への戦術を議論するとともに、仲間の輪を広げようという議論を深めました。

6人ずつ8班に分かれて、超勤問題や委員会・研修など各自の職場で起きている問題について議論しました。次に、問題を解決するためにはどのような戦術があるかを話し合い、各班から退勤時間調査や署名、団体交渉、36協定、ストライキなど様々な戦術が出ました。運動の山場を3〜4つイメージし、戦術にいつ取り組むか考え、その後各班で取り上げた職場の問題と戦略、戦術を発表しました。



2日目は、伊藤圭一氏（全労連幹事）から講演「よくわかる賃金闘争」を受け、「医療労働者の賃金は高いのか、賃金とは何か、ストライキとは何か」などの基本を学び、今後の職場での実践に活かせるものとなりました。伊藤さんは「医療労働者の賃金が低く抑えられていることに怒りを持ち、改善を求めていこう」と呼びかけました。

最後に、香月書記長がまとめを行い、「ワークショップでは要求実現を勝ち取るための戦略や活動家や支持者を増やしていく重要性を学ぶことができました。賃上げは労働者の基本的な要求であり、確信を持って要求していこう。そのためにも、仲間を増やすことが不可欠。全医労学校で学んだことを力にして、支部に帰って奮闘してほしい」と呼びかけ、全日程を終えました。